

郡山地域での 「市長とふれあいトーク」発言に対する処理方針

〔開催概要〕

日時：平成23年5月13日（金）19：00～20：00

場所：郡山公民館

※ 平成23年度 第1回目

平成23年5月
鹿児島市 市民協働課

「市長とふれあいトーク」発言に対する処理方針

日時：平成23年5月13日（金）19：00～20：00
場所：郡山公民館

番号	発言者	発言内容	市長回答	関係部局	検討結果、今後の方針等
1	郡山校区公民館運営審議会 男性	① 地域公民館と校区公民館の事業内容が似通っているため、役割分担を整理した方がいいのではないか。	① 地域公民館と校区公民館の果たす役割は違うものがあると思いますが、事業運営や事業活動について一定の整理をしないといけないということで、現在、コミュニティビジョンを作成しております。 今後、地域のコミュニティについて、地域公民館、校区公民館、安心安全ネットワーク、福祉ネットワークを含めた地域の役割を整理しようということで、小学校区を基礎母体として、組織・運営ができないかと考えているところです。 その中で、地域公民館と校区公民館、それと様々な審議会、協議会それらを含めた役割と責任というものを整理しようとしているところです。	市民局 教育委員会	（市民局） 本市が今年3月に策定した、鹿児島市コミュニティビジョンでは、町内会や校区公民館運営審議会などの地域コミュニティ組織の連携を強化し、既存の地域コミュニティ組織が集う場として新たな地域コミュニティ連携組織の立ち上げを支援することとしています。 今後、地域コミュニティづくりを進めるうえで、「きっかけづくり」「人づくり」「環境づくり」「結びづくり」を進め、地域コミュニティ組織と行政との協働に向けての支援体制の充実・強化を図ってまいります。 （教育委員会） 校区公民館は、校区住民の自主的で主体的な学習の場であるとともに、校区における青少年の健全育成や高齢者の福祉、交通安全、生活環境の保護や美化等、まちづくり活動を推進する拠点としての役割も担っています。 一方、地域公民館は、市民を対象とした、生活に即する教育・文化活動等に関する各種の事業を行うとともに、市民の自主的な学習を支援する社会教育施設です。 さらに、地域内の校区公民館相互の連絡調整を図りながら、必要に応じて移動講座を開設したり、指導者の養成や学級講座の運営、方法の改善等について、指導助言したりする役割も担っています。 今後、両公民館の特色を生かしながら、それぞれの役割、責任を整理し、事業運営や各種活動を展開してまいりたいと考えております。

「市長とふれあいトーク」発言に対する処理方針

日時：平成23年5月13日（金）19：00～20：00
場所：郡山公民館

番号	発言者	発言内容	市長回答	関係部局	検討結果、今後の方針等
		② 甲突川を自然ふれあいの場として、どう生かしていくのか。	② 甲突川の生かし方ですが、甲突川は鹿児島市に流れる一番大きな川であります。 河川の管理は県で行っておりますけれども、8・6水害後、ハード面の整備は終了したと県からお聞きしておりますが、これからはソフトの面の対策が重要になってくると思います。それが鹿児島島の魅力の一つになるのではないかと思います。 今、甲突池の整備を進めたり、下流では甲突川の右岸、左岸の整備もしております。 また、甲突川の川べりは県の方で整備をして、そこにサイクルロードや歩く道として整備をしておりますので、これらを生かしながら、そしてまた、自然環境にも対応する河川というのも大きな魅力となりますので、今後ソフト面での対応策を作っていければと思います。	環境局	鹿児島市では、広く市民に川を自然ふれあいの場として親しんでいただくため、平成22年度に市内の主な河川について、植物・魚類・鳥類などの水生生物生息調査を実施し、その結果を「川の生きものたち」というパンフレットにして市民に提供しております。 また、環境未来館では、甲突川の自然を体験しながら環境について学ぶ環境学習講座を開催しているほか、環境フェスタのイベントにおいては、カヌー体験や生き物観察会を開催しております。 平成23年度からは、カヌー体験や稚魚の放流などを行う甲突川リバーフェスティバルを開催し、甲突川の自然や生き物とふれあう機会を設けたところです。 今後も、市民が甲突川とふれあう体験の機会を増やすとともに、甲突川に住んでいる生き物を広く紹介することにより、甲突川と甲突川に生きる生物への興味、関心を高め、自然への理解を深めて、環境保全の意識を高めてまいりたいと考えております。

「市長とふれあいトーク」発言に対する処理方針

日時：平成23年5月13日（金）19：00～20：00
場所：郡山公民館

番号	発言者	発言内容	市長回答	関係部局	検討結果、今後の方針等
2	郡山地域まちづくりワークショップ 男性	③ まちづくりワークショップについて、第五次総合計画ではどのように位置づけられ、また協働の立場から、今後の支援をどうしていくのか。	③ 私が現在策定中の第五次総合計画の中で最も大きな柱としているのが「協働」でございます。 今までは観光、環境、教育、子育てそして協働ということで実施をして参りましたが、これからは市民との協働、市民の皆様と同じ方向を向いて市政を進めていきたいということで、今回の総合計画の柱は6つありますが、その最重要項目として協働ということをご認識いただいております。 ワークショップの皆様には、立ち上げてから2年半活動をしていただいております。昨年はその成果を発表していただきましたが、私は皆様の熱い思いを肌で感じ、鹿児島市のまちづくりに知恵を出し、汗を流しておられることに感服をいたしました。 今後はこの第五次総合計画においても、ワークショップの重要性、役割をしっかりと踏まえた事業展開に努めてまいりたいと考えております。 また、先ほどお話をしましたが、ゆくゆくは、それぞれの地区の小学校単位、ワークショップ単位で地域の特性・魅力を生かしたまちづくりを自らが取り組んでゆき、また、多くの皆様のご意見を聞き、それを還元できるような仕組みをつくっていきたくと考えております。 ワークショップの皆さんには、現在運営補助という形で支援をしておりますが、今後も皆さんが活動しやすい支援のあり方を、総合計画の中でも考えていきたくと考えておりますので、よろしく申し上げます。	企画財政局 市民局	※市長回答のとおり

「市長とふれあいトーク」発言に対する処理方針

日時：平成23年5月13日（金）19：00～20：00
場所：郡山公民館

番号	発言者	発言内容	市長回答	関係部局	検討結果、今後の方針等
3	かごしま市 商工会郡山 支部 男性	④ 商工会が合併したが、合併前と同様の補助金の維持をお願いしたい。	④ 商工会は今年の4月1日に、6つの商工会が合併して1つになりました。これまでは6つの商工会にそれぞれ、事業補助という形で補助をしていました。今回、合併により一つの大きな団体になりましたが、他の経済団体に比べて、地域に一番密着しているのがこの商工会ではないかと思えます。 それぞれの商工会が、夏祭り等のいろんな行事に積極的に取り組んでおられますが、多くの地域の方がその行事に参加され、それが地域の活力を生む原動力になっていると思えます。 合併して一つの大きな団体になりましたので、本所がそれぞれの部会等に対して配分をするということになるかと思えますが、総体の補助金につきましては、厳しい財政状況ではありますが、ご意向を踏まえまして堅持をしていきたいと思えます。 また一つ一つの行事について、どのように力添えをできるかにつきましても、検討をしていきたいと思えます。	経済局	商工会が行う地域経済の振興に資する事業に対し、今後も補助金の交付により支援するとともに、連携を強化するなど、商工会の円滑な事業実施を支援してまいりますと考えているところです。

「市長とふれあいトーク」発言に対する処理方針

日時：平成23年5月13日（金）19：00～20：00
場所：郡山公民館

番号	発言者	発言内容	市長回答	関係部局	検討結果、今後の方針等
4	郡山地域校区社会福祉協議会 男性	<p>⑤ 私たちは一人暮らしの高齢者等の安否確認のための見守り活動に重点をおいて活動している。</p> <p>しかし、現在、29の自治会のうち10の自治会が見守り活動を行うことができない状態になっている。</p> <p>合併前までは全ての自治会に福祉アドバイザーが配置されていたが、合併とともに校区社協が設置されると、自治会に配置されていた福祉アドバイザーが自治会の組織から無くなった。</p> <p>合併後、小地域福祉ネットワーク活動に取り組む19の自治会においても、その活動はボランティア活動であり、校区社協から財政的な援助もできない状態であり、手立てがない。</p> <p>そこで高齢者の見守り活動維持のために、福祉アドバイザー制度を実施してもらえないか。</p>	<p>⑤ これからは少子高齢化がますます進み、その対策・対応というものが私ども自治体運営に大きな責任が課されると思います。</p> <p>また、一方では、この問題は行政だけでは対応できませんので、地域の皆様方と一緒に、高齢者対策、子どもの教育や安心安全対策の取り組みなどをしていかなければならないと考えております。</p> <p>そういった中で、この郡山地域では、福祉アドバイザーという制度があって、1人暮らしのお年寄りを見守ってこられたということですが、これからは先ほども申し上げましたように、校区運営審議会、安心安全ネットワーク、福祉ネットワークなどのいろいろな団体を集約して、連携を図れるような対策をとりつつあるところですので、その中でも検討をさせていきたいと思っております。</p> <p>これは喫緊の課題ですので、それぞれの地域で、それぞれの団体の皆様方が連携をし、協力をして、独居老人とか安心安全の対策とかのいろんな課題について、それぞれの地域の協議会で取り組めるようにしていきたいと思っておりますので、ご意見を参考にして、コミュニティのあり方について検討をさせてみたいと思います。</p>	健康福祉局 市民局	<p>（健康福祉局）</p> <p>高齢者の見守り活動を推進するために、昨年度、新たな取り組みとして民生委員や健康づくり推進員など、各地域の団体が協働して地域の閉じこもりがちな高齢者を訪問し、声掛けを行う「高齢者ふれあい・仲間づくり推進事業」を実施し、地域の高齢者を地域で支える気運を高めたところであります。</p> <p>また、その他ひとり暮らしの高齢者で安否の確認の必要な方に対し、ご自宅まで食事をお届けする「心をつなぐ訪問給食事業」、地域のボランティアグループ（ともしびグループ）による「声かけ運動」、高齢者の緊急時に消防局等へ通報するシステムと、ひとり暮らし高齢者への安否確認と相談業務を定期的に行うコールサービスの機能を備えた「在宅介護支援システム」の運用などに取り組んでいるところであります。</p> <p>見守り活動については、地域福祉ネットワークの構築により取り組んでいきたいと考えておりますので、ご理解いただきたいと思います。</p> <p>（市民局）</p> <p>本市が今年3月に策定した、鹿児島市コミュニティビジョンでは、町内会や校区公民館運営審議会などの地域コミュニティ組織の連携を強化し、既存の地域コミュニティ組織が集う場として新たな地域コミュニティ連携組織の立ち上げを支援することとしております。</p> <p>この地域コミュニティ連携組織には、部会を設置することとしており、ご意見にあるような活動と連携して取り組めるよう、例えば福祉部会としての活動ができるよう支援してまいります。</p>

「市長とふれあいトーク」発言に対する処理方針

日時：平成23年5月13日（金）19：00～20：00
場所：郡山公民館

番号	発言者	発言内容	市長回答	関係部局	検討結果、今後の方針等
		⑥ 小地域ネットワーク補助金を年間5万円いただいているが、自治会の話合い活動等には使えない。もう少し使い勝手のいい補助金となるように、柔軟性を高めてほしい。	⑥ 小地域ネットワーク補助金の活用については、ご協力いただき感謝しております。 この補助金は、校区社会福祉協議会が、鹿児島市地域福祉計画に基づく地域福祉の推進を図るため、小地域ネットワーク活動の活性化や地域福祉活動団体の連携強化、情報の共有化の促進に資する事業に関する経費に対し、上限5万円とし補助しているところです。 柔軟性のある補助金にしてほしいということでありましたが、これについては、これまで補助金の要綱等に基づいて運用しているところで、ご意見のあったことにつきましては、他の地域の社協からも要望があると思いますので、検討をさせてみたいと思います。	健康福祉局	小地域ネットワーク補助金については、校区社協が主催する地域福祉を推進する活動を補助対象としております。 自治会におかれましては、今後とも校区社協を中心とする小地域ネットワークの構成団体として参加し、連携を図りながら、補助金の有効活用を検討していただきたいと思います。
5	郡山更生保護女性会 女性	⑦ 行政には金銭的には至れり尽くせりの援助をしていただいておりますが、子どもたちには、金銭的な補助だけでなく、心を育む研修をしてほしい。	⑦ 青少年の健全な育成については、協議会等を開催して、その中で心のケアを含めて対応しております。 鹿児島の将来を担う青少年を、今後どのような形で健全に育てていくのが大きな課題となっております。 また、今後、各学校、各地域での見守り活動や精神的な支えになれるような活動にも取り組む必要性があることについても、協議していただいております。 今、ご意見をいただいたことにつきましても、今後協議会の中で審議していただいて、そのことを踏まえて、どういう対応ができるかということ、教育委員会を中心にコミュニティを担当している部署とも連携をしながら、対応策を模索していきたいと思っております。 また、私が今述べたことも協議会にお伝えしたいと思っております。	教育委員会 市民局	（教育委員会） 本市では、学校・家庭・地域が一体となって、社会全体で青少年の健全育成に取り組むため、年2回の青少年問題協議会を開催しています。 本年度は、特に「学校と家庭、地域が連携した心の教育の推進」を中心テーマに、専門委員会を設置し、調査研修を行うこととしております。 今後、一層協議を深め、心の教育推進のための具体的な対応策を見いだしてまいりたいと考えております。 （市民局） 共に助け合い、みんなで作る活力ある地域コミュニティを目指し、今年3月に策定した鹿児島市コミュニティビジョンにおいて、「きっかけづくり」「人づくり」「環境づくり」「結びづくり」の4つの方策を掲げました。 中でも、「きっかけづくり」（意識啓発）を進める上の施策の一つとして、若年層に向けた意識啓発に取り組むこととしておりますので、ご意見についてはこれを進める上での参考とさせていただきます。

「市長とふれあいトーク」発言に対する処理方針

日時：平成23年5月13日（金）19：00～20：00
場所：郡山公民館

番号	発言者	発言内容	市長回答	関係部局	検討結果、今後の方針等
6	八重棚田保全委員会 男性	⑧ 八重棚田保全委員会が八重棚田館を使用する場合は、公的機関と同様の扱いとし、使用料を減免してほしい。	⑧ 昨日も棚田のオーナーを募集するという記事が新聞に出ていましたが、この棚田というものが、地域の大きな魅力になっており、グリーンツーリズムの活性化につながっていると考えております。 棚田館の使用料の減免ができないかということでございますが、鹿児島市には9つの農村研修施設がございますが、それぞれが活性化に向けて取り組んでいく拠点施設となっております。 使用料については、他の農村研修施設との兼ね合いがありますので、それぞれの施設とそこを利用している方々、また、それぞれの施設をどういう形で活用していくのかということをも十分踏まえる中で、ご要望については検討させてみたいと思いますけれども、現在は9つの施設は均一な料金体系で運営しているところです。 また、八重棚田保全委員会についてどういう取り扱いができるか、他の施設の利用団体等を調査しながら検討させてみたいと思います。	経済局	本市では、使用料の減免について、「鹿児島市農村研修施設条例施行規則」の第9条第1項第2号で、「鹿児島市内の農業者団体が施設等を使用する場合で、市長が必要と認めるとき」は使用料を免除する旨規定しております。 八重棚田保全委員会の皆様の活動は、田植え、稲刈り、イモ掘りなどを通じ、都市と農村の交流と棚田の保全を目的としており、その組織編成は、地域の農家を中心とした地域住民で構成されていることから、農業者団体と同格と考えられます。 したがって、利用目的が「都市住民との交流」など減免条件を満たした場合には、申請していただくことによって、使用料を免除することができます。

「市長とふれあいトーク」発言に対する処理方針

日時：平成23年5月13日（金）19：00～20：00
場所：郡山公民館

番号	発言者	発言内容	市長回答	関係部局	検討結果、今後の方針等
7	郡山生活学校 女性	⑨ 鹿児島市と合併したことで、分別が和らいだ。処分場の焼却期限が早まるのではと心配している。買物袋持参運動など省エネ・省資源活動を市民全体で取り組むため、広報をもっと強化してもらいたい。	⑨ 省資源・省エネの推進につきましては、ご協力いただき感謝しております。 第五次総合計画の中で大きな柱に協働を掲げておりますが、その同じ重点項目の中で環境政策や教育政策を協働で作っていくこととしております。 また、自らの力で地域の環境を保全し、維持していくということは、私の市政運営の方針と全く同じでございますので、大変心強く思っております。 私は、現在、鹿児島市環境配慮率先行動計画に基づき、積極的に省資源・省エネに取り組んでいるところでございます。 今後は、現在策定中の鹿児島市地球温暖化対策アクションプランにおいて、様々な検討を行ってまいりたいと思います。 ごみの分別等につきましても、今おっしゃられたように清掃工場の稼働の期限も限られています。また、埋立処分場につきましても、最終限度期間もありますので、そういう点もにらみながら、市民の皆さんにごみの分別をすることでどのように省資源に役立つかを広報をしながら、対策を立てていきたいと思っております。 今回の東日本大震災でもおわかりのように、今後は環境対策というものがより一層重要になってくると思いますので、環境面にも十分に力を入れて行政運営をすすめたいと思っております。	環境局	（省資源・省エネの部分については、市長回答のとおり） ごみの分別に関しましては、3R推進事業において、「ごみ出しカレンダー」を毎年、市内の全世帯に配布しているほか、市民団体等を対象とした市政出前トークでの説明を行うなど、さまざまな機会を捉えて、意識啓発に取り組んでいます。 また、「ごみ減量・リサイクル週間」に併せた懸垂幕の掲示やアミュプラザでの大型ビジョン広告、3R推進月間にあわせた市電・市バスの車内広告等も行ってまいります。 今後も、市民の皆さまに、ごみの減量化・資源化にご理解とご協力をいただけるよう、広報活動に努めてまいります。

「市長とふれあいトーク」発言に対する処理方針

日時：平成23年5月13日（金）19：00～20：00
場所：郡山公民館

番号	発言者	発言内容	市長回答	関係部局	検討結果、今後の方針等
8	郡山地域まちづくりワークショップ 男性	⑩ 協働のパートナーとして、自治会組織を再評価していただきたい。また、なんらかの形で行政組織に組み入れるなかで、課題解決にあたっていただきたい。	⑩ 郡山地域は自治会組織が大変充実していると思います。 私がコミュニティビジョンを作成しようと考えたのは、今鹿児島市内で、町内会の組織率が下がってきて、6割を切ろうとしており、地域のまちづくりを地域の力で行うためには、地域力をつけていかないといけないと常日頃考えていたからです。 行政を預かるものとして、協働、連携を大きな柱としてまちづくりを進めていくためには、地域の皆様のお力をお貸しいただかなければ成り立たないと思っております。 そういうことから、町内会等の住民自治組織を、本市では、まちづくりにおける重要なパートナーであると認識し、皆様方が活動をしやすいための様々な支援を行ってきているところでございます。 今後もより一層、自治会組織の活動についてこういった形で連携をしていけるかということ、コミュニティビジョンの中で推進してまいりたいと思っております。 もう一つは、自治会組織を行政組織に組み入れるということですが、任意の団体でありますので、現段階では難しいと考えますが、逆に自治会組織等の果たす役割は、大変大きなものがあると考えております。 今後は、自治会組織を鹿児島市の重要なパートナーとしてとらえ、行政の情報もお伝えしながら、一緒にまちづくりができればいいと思っております。	市民局	町内会等の地域コミュニティ組織はこれまで、子育てや教育、地域の安心・安全や環境対策などの活動により、本市の地域コミュニティを支えてこられました。 本市が今年3月に策定した、鹿児島市コミュニティビジョンでは、これまで、町内会や校区公民館運営審議会などの地域コミュニティ組織の連携を強化し、既存の地域コミュニティ組織が集う場として新たな地域コミュニティ連携組織の立ち上げを支援することとしています。 今後、地域コミュニティづくりを進めるうえで、「きっかけづくり」「人づくり」「環境づくり」「結びづくり」を進め、地域コミュニティ組織と行政との協働に向けての支援体制の充実・強化を図ってまいります。 町内会等の地域コミュニティ組織は、市政における重要なパートナーであり、これまで以上に活発な活動を行えるよう支援し、再生するため、自助・共助・公助を基本として「市民との協働のまちづくり」に取り組んでまいります。

「市長とふれあいトーク」発言に対する処理方針

日時：平成23年5月13日（金）19：00～20：00
場所：郡山公民館

番号	発言者	発言内容	市長回答	関係部局	検討結果、今後の方針等
9	南方校区公民館運営審議会 男性	<p>⑩ 校区公民館と地域公民館は似ているところもあるが、これからは違いをはっきりさせていかなければいけないと思う。</p> <p>特に校区公民館は、これからはまちづくりや高齢者による青少年教育の拠点となるべきだと思うが、人が常駐していないので、敷居が高いように思う。</p> <p>日置市のように校区公民館に人を常駐させ、コミュニティセンターのような役割を担わせるべきではないか。</p>	<p>⑪ 私も今のご意見に同感です。先ほど申し上げたように、校区運営審議会、校区公民館、地域公民館、また、地域福祉館もございます。またそれぞれの地域に、安心安全ネットワーク、福祉ネットワークもございます。それぞれ立ち上げた時期や目的もそれぞれ違いますけれども、今後はコミュニティビジョンの中で、それぞれの校区でひとつの組織を作っていかなければならないと思っております。</p> <p>校区公民館も学校の中にあるところもあれば、学校外にあるところもあるので、今後整理していかなければならないと思います。</p> <p>これから、それぞれの地域で核になる組織は、校区を中心とした組織ではないかと思えます。</p> <p>校区運営審議会や福祉館の団体、福祉ネットワークにも同じような方々が輻輳して入っていますので、そういうものが整理ができれば学校単位の組織が中心になると思えますので、今後、コミュニティビジョンの中で謳いながら、その中で公民館を運営する体制についても検討していきたいと思えます。</p>	教育委員会 市民局	<p>（教育委員会） 地域公民館と校区公民館については、今後、それぞれの役割、責任を整理し、事業運営や各種活動を展開してまいりたいと考えています。</p> <p>また、校区公民館は校区における青少年の健全育成や高齢者の福祉、交通安全、生活環境の保護や美化等、まちづくり活動を推進する拠点としての役割も担っており、さらにその充実を図るため、運営体制につきましても、今後関係部局と協議してまいりたいと考えています。</p> <p>（市民局） 本市が今年3月に策定した、鹿児島市コミュニティビジョンでは、町内会や校区公民館運営審議会などの地域コミュニティ組織の連携を強化し、既存の地域コミュニティ組織が集う場として新たな地域コミュニティ連携組織の立ち上げを支援することとしています。</p> <p>今後、地域コミュニティづくりを進めるうえで、「きっかけづくり」「人づくり」「環境づくり」「結びづくり」を進め、地域コミュニティ組織と行政との協働に向けての支援体制の充実・強化を図ってまいります。</p>

「市長とふれあいトーク」発言に対する処理方針

日時：平成23年5月13日（金）19：00～20：00
場所：郡山公民館

番号	発言者	発言内容	市長回答	関係部局	検討結果、今後の方針等
10	花尾校区公民館運営審議会 男性	⑫ 若い人が定着するにはどうすればいいか。また、花尾地区は花尾神社などの古い歴史や、豊かな自然に恵まれているので、もっと観光に力を入れてもらいたい。	⑫ 花尾皆迫住宅が5月10日に完成し、5月31日に入居開始と聞いております。地域に若い人が定住していただいて、地域の魅力を継承していくといった対応ができていけばいいと思っております。 また、花尾地区は大変魅力のある史跡がたくさんございます。花尾地区に限らず、郡山にはたくさんそういう史跡があります。先ほどワークショップの方に紹介していただいた「さるっきゃんせ郡山」にもたくさん載っております。 このように地域の新しい魅力や伝承してきておられる財産を地域だけではなく、また鹿児島市民だけではなく、たくさんの方に紹介をし、来ていただく方策を考えていく必要があると思っております。 今スタンプラリーというのもあり、多くの皆様に来ていただける状況になっていると思います。 先日、新幹線が全線開業しましたので、関西方面の方がたくさん来ていただけるように、対策をさせていただきたいと思っております。 また、これからは郡山の魅力を伝えている冊子などを活用させていただきたいと思っております。皆様方と一緒に魅力をお伝えしていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。	市民局 経済局	本年度改訂した観光パンフレットにおいては、花尾神社や八重の里などの観光情報を掲載しているところです。 また、主に県外向けに本市の旬の情報などを紹介する「鹿児島市いまどき情報」を発行しており、この「2010年秋編」にて、花尾神社における「秋の大祭」、「蟻の花尾詣で」などの情報を掲載したところです。 今後も様々な形で、本市の情報発信に努めてまいります。